

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 23 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520377

研究課題名（和文）音注の訓詁学的研究

研究課題名（英文）On the explanatory function of phonetic notation

研究代表者

森賀一恵（MORIGA KAZUE）

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：60243094

研究成果の概要（和文）：この研究課題は、従来、音韻学的見地からのみ研究対象とされてきた音注について訓詁学的観点から新たに見直すとともに、やはり従来看過されてきた音注の史的变化の過程も明らかにすることを旨とするものである。2008年度は、『經典釋文』毛詩音義、『詩集傳』、『詩經集傳』の音注対照表は予定通り完成し、その成果は「毛詩音対照表」として『富山大学人文学部紀要』第51号に発表した。2009年度は、『論語』の経文に見える文字に附された音注の調査をし、「論語音対照表」として『富山大学人文学部紀要』第53号に発表、2010年度は、『禮記』大学篇・中庸篇の調査をし、『『大学章句』、『中庸章句』の音注について』として『富山大学人文学部紀要』第55号に発表した。今年度は、それらに基づいて、一般的な多音字について、『經典釋文』と朱熹注の音注の付け方を詳しく分析し、二者の多音字に対する注音態度の違いを明らかにした。その分析結果は「『經典釋文』と朱熹注音」として『富山大学人文学部紀要』第57号に発表する予定である。この調査により、多音字の注音では『經典釋文』が反切を用いていても『四書集注』では声調で音を示す場合が多いことが明らかになった。音注を声調に置き換えることは文字に圈発をつけることを可能にするということでもある。訓詁学的音注の史的变化を明らかにするために行った調査ではあったが、音注の変化が宋以降の木版印刷の普及とも関連を持つ可能性を示唆するものでもあった。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the explanatory function of phonetic notation. Through the comparison of the phonetic notations of *JingDian Shiwen* and Zhuxi's commentaries, it's not difficult to find that the methods of the phonetic notations which have the explanatory function changes with the times. In other words, the results of this research suggest the historical changes in the methods of phonetic notations. This formerly overlooked but very important aspect of this subject cannot be ignored anymore.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|--------|--------|---------|
| 2008年度 | 400000 | 120000 | 520000 |
| 2009年度 | 200000 | 60000 | 260000 |
| 2010年度 | 100000 | 30000 | 130000 |
| 2011年度 | 100000 | 30000 | 130000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 800000 | 240000 | 1040000 |

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学2

キーワード：訓詁学、音注、經典釋文

1. 研究開始当初の背景

中国語学の研究対象の一つである音注は従来、音韻学的に取り扱われることが多く、音と意味の関係に関わる四声別義の研究も時代による変化という観点が欠けていた。

2. 研究の目的

この研究課題は、従来、音韻学的見地からのみ研究対象とされてきた音注について訓詁学的観点から新たに見直すとともに、やはり従来看過されてきた音注の史の変遷の過程も明らかにすることを旨とするものである。

3. 研究の方法

(1) データ入力

入力するデータは、『經典釋文』毛詩音義、論語音義、礼記音義、『詩經集傳』、『詩集傳』、『四書集注』の音注。使用テキストは、阮元本『十三經注疏』、通志堂經解本『經典釋文』、四庫全書本『詩經集傳』、四部叢刊本『詩集傳』、中華書局本『四書集注』である。

(2) 異本収集、テキスト校勘

基本データの入力には、通行本を用いるが、これらの書物には多くの異本が存在するので、より有用なデータ蓄積のために、異本を収集し、校勘の成果をデータに加える。東京大学総合図書館、京都大学人文科学研究所漢字情報研究センター所蔵の乾隆四年武英殿刊本、毛氏汲古閣刊本、東大図書館・東大東文研所蔵の嘉靖年間福建刊本、京大人文研センター所蔵の萬曆の國子監刊本、などとの異同を調査し、『經典釋文』については盧文弨の攷證、黃焯の彙校を基に問題点を抜き出した上で、旧抄本などとの異同を調査する。『詩集傳』についても二十卷本と八卷本を比較した上で問題点が見つかった場合は、光緒十三年刊劉氏傳經堂叢書本など可能な限り異本を調査したい。影印で手に入るテキストについては購入し、公的機関の所蔵するもので写真撮影が可能なものは写真撮影により、収集可能なテキストを収集する。

(3) 当該分野（經学、訓詁学、版本学）との研究打合せ

この分野の研究での研究活動が比較的頻繁に行われている京都大学などにおいて、經学、訓詁学、版本学研究者と情報交換を行い、情報の共有・蓄積を進め、最先端の知識を取り入れるとともに、共通理解を深め、当研究

の普遍性と独自性について十分に確認した上で、その独自性を発揮するべく、場合によっては研究の方向を修正する。

4. 研究成果

2008年度は、『經典釋文』毛詩音義、『詩集傳』、『詩經集傳』の音注対照表は予定通り完成し、その成果は「毛詩音対照表」として『富山大学人文学部紀要』第51号に発表した。2009年度は、『論語』の經文に見える文字に附された音注の調査をし、「論語音対照表」として『富山大学人文学部紀要』第53号に発表、2010年度は、『禮記』大学篇・中庸篇の調査をし、『『大学章句』、『中庸章句』の音注について』として『富山大学人文学部紀要』第55号に発表した。今年度は、それらに基づいて、一般的な多音字について、『經典釋文』と朱熹注の音注の付け方を詳しく分析し、二者の多音字に対する注音態度の違いを明らかにした。その分析結果は「『經典釋文』と朱熹注音」として『富山大学人文学部紀要』第57号に発表する予定である。以上四篇の紀要論文は、『毛詩』『論語』『礼記』大学篇、中庸篇の經文の文字に附された音注について、先ず網羅的な調査により先ず『經典釋文』出現順の対照表を作成した上で、多音字をソートし、多音字一字ごとに『經典釋文』における注音法と『詩經集傳』『詩集傳』『四書集注』の注音法を比較し、その結果を分析したものである。対照表については大部のものであり、全てを転載することは不可能なのでここではサンプルとして一部のみ掲載する。全データについては論文を参照されたい。

(サンプル)

① 毛詩音対照表

「毛詩音対照表」は、『毛詩』の經文に見える字に附される陸德明『經典釋文』（通志堂本）および朱熹『詩集傳』二十卷本（四部叢刊三編本）、八卷本（四庫全書本）の音注の対照表である。

| 毛詩篇名 | 被注字 | 經典釋文 | 二十卷本 | 八卷本 |
|------|-----|------|------|-----|
| 邶・柏舟 | 汎 | 敷劒反 | 芳劒反 | 芳梵反 |
| 邶・柏舟 | 耿 | 古幸反 | 古幸反 | 古幸反 |
| 邶・柏舟 | 敖 | 五羔反 | 五羔反 | 音翱 |
| 邶・柏舟 | 監 | 甲暫反 | × | × |
| 邶・柏舟 | 茹 | 如預反 | 如預反 | 音孺 |

| | | | | |
|------|---|--------------|--------|------|
| 邶·柏舟 | 愬 | 蘇路反 | × | × |
| 邶·柏舟 | 怒 | 協韻乃路反 | × | × |
| 邶·柏舟 | 卷 | 眷勉反 | 眷勉反 | 音捲 |
| 邶·柏舟 | 棣 | 徒帝反 | × | × |
| 邶·柏舟 | 選 | 雪兗反 | × | × |
| 邶·柏舟 | 悄 | 七小反 | 七小反 | 七小反 |
| 邶·柏舟 | 愠 | 憂運反 | × | × |
| 邶·柏舟 | 覲 | 古豆反 | 古豆反 | 音垢 |
| 邶·柏舟 | 辟 | 避亦反 | 避亦反 | 音關 |
| 邶·柏舟 | 標 | 符小反 | 婢小反 | 音殍 |
| 邶·柏舟 | 迭 | 待結反 | 待結反 | 音埏 |
| 邶·柏舟 | 澣 | 戶管反 | 戶管反 | 音緩 |
| 邶·綠衣 | 綠 | 毛如字，鄭改作椽，吐亂反 | × | × |
| 邶·綠衣 | 裏 | 音里 | × | × |
| 邶·綠衣 | 女 | 崔云，毛如字，鄭音汝 | 音汝 | 音汝 |
| 邶·綠衣 | 治 | × | 平聲 | 平聲 |
| 邶·綠衣 | 俾 | 卑爾反，沈必履反，使也 | × | × |
| 邶·綠衣 | 訖 | 音尤，本或作尤，過也 | 音尤叶于其反 | 叶于其反 |
| 邶·綠衣 | 淒 | 七西反，寒風也 | 七西反 | 音妻 |
| 邶·綠衣 | 風 | × | 叶孚惰反 | 叶為惰反 |

②論語音對照表

| 篇 | 被注字 | 被注簡所 | 釋文 | 集注 |
|----|-----|------|-----|------|
| 學而 | 說 | 亦說 | 音悅 | 說、悅同 |
| | 朋 | 有朋 | 蒲弘反 | × |

| | | | | |
|--|-----|------|-------------------------|-------|
| | 樂 | 亦樂 | 音洛 | 音洛 |
| | 慍 | 不慍 | 紆問反 | 紆問反 |
| | 弟 | 孝弟 | 大計反 | 去聲 |
| | 好 | 而好 | 呼報反，下及注同 | 去聲 |
| | 鮮 | 鮮 | 仙善反，…，下同 | 上聲，下同 |
| | 與 | 本與 | 音餘 | 平聲 |
| | 三 | 三 | 息暫反，又如字 | × |
| | 省 | 省 | 悉井反 | 悉井反 |
| | 爲 | 爲人 | 于僞反，又如字 | 去聲 |
| | 傳 | 傳不 | 直專反 | 平聲 |
| | 道 | 道 | 音導，本或作導 | 去聲 |
| | 乘 | 千乘 | 繩證反 | 去聲 |
| | 弟 | (弟子) | × | 上聲 |
| | 弟 | 則弟 | 音悌，本亦作悌 | 去聲 |
| | 汎 | 汎愛 | 孚劍反 | × |
| | 行 | 行有 | 下孟反，下云觀其行并注同 | × |
| | 夏 | 子夏 | 戶雅反 | × |
| | 毋·無 | 毋友 | 音無，本亦作無 | (無毋通) |
| | 憚 | 憚 | 徒旦反 | × |
| | 與 | 之與 | 音餘，下之與同 | 平聲，下同 |
| | 抑 | 抑與 | 於力反 | × |
| | 行 | (其行) | 上文「行有」釋文に「下孟反，下云觀其行并注同」 | 去聲 |

③中庸·大學音對照表

中庸音對照表

| 被注字 | 被注箇所 | 釋文 | 章句 |
|-----|------|--------------------|--------|
| 率 | 率性 | 所律反, 循也 | × |
| 離 | 離也 | 力智反, 下及注同 | 去聲 |
| 睹 | 不睹 | 丁古反 | × |
| 恐 | 恐懼 | 匡勇反, 注同 | × |
| 間 | 間居 | 音閑, 下同 | × |
| 見 | 莫見 | 賢遍反, 注顯見同, 一音如字 | 音現 |
| 樂 | 哀樂 | 音洛, 注同 | 音洛 |
| 中 | 中節 | 丁仲反, 下注爲之中同 | 去聲 |
| 憚 | 忌憚 | 徒旦反, 忌畏也, 憚難也 | × |
| 鮮 | 民鮮 | 息淺反, 下及注同, 罕也 | 上聲, 下同 |
| 知 | 知者 | 音智, 下文大知也、予知、注有知皆同 | 去聲 |

大學音對照表

| 被注字 | 被注箇所 | 釋文 | 章句 |
|-----|------|---------------|---------------|
| 大 | 大學 | 舊音泰, 劉直帶反 | 舊音泰, 今讀如字 |
| 近 | 則近 | 附近之近 | × |
| 治 | 治其國 | × | 平聲, 後放此 |
| 知 | 其知 | 如字, 徐音智, 下致知同 | × |
| 格 | 在格 | 古百反 | × |
| 治 | 國治國治 | 並直吏反, 下同 | 去聲, 後放此 |
| 毋 | 毋自 | 音無 | × |
| 惡 | 如惡惡 | 上烏路反, 下如字 | (惡好,) 上字皆去聲 |

分析結果の概要を述べる。『詩經集傳』二十卷本は概ね『經典釋文』の音を襲用するが、『詩集傳』八卷本、『四書集注』は意味の違いに対応する音の違いが聲調で特定できる場合は、声調を用いる傾向がある。『釋文』直音注には、直音注を用いることで被注字が本字本音で讀むべであることを示す場合があるが、そのような場合でも、複数の音の違いが声調で區別できるときは『四書集注』は聲調を用いる。この調査により、多音字の注音では『經典釋文』が反切を用いていても『四書集注』では声調で音を示す場合が多いことが明らかになった。音注を声調に置き換えることは文字に圈發をつけることを可能にするということでもある。訓詁学的音注の史の変遷を明らかにするためにに行った調査ではあったが、音注の変化が宋以降の木版印刷の普及とも関連を持つ可能性を示唆するものでもあった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

森賀一恵、『經典釋文』と朱熹注音、富山大学人文学部紀要、査読無、57、2012、(9月刊行予定)

森賀一恵、「詩中避畜諱」の「畜」は畜か、桃の会論集、査読無、5、2011、73-79

森賀一恵、『大学章句』、『中庸章句』の音注について、富山大学人文学部紀要、査読無、55、2011、115-135

森賀一恵、論語音對照表、富山大学人文学部紀要、査読無、53、2010、103-137

森賀一恵、毛詩音對照表、富山大学人文学部紀要、査読無、51、2009、65-113

森賀一恵、史 = 『通鑑釋文』と胡三省『音注資治通鑑』、富山大学人文学部紀要、査読無、49、2008、113-139

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森賀一恵 (MORIGA KAZUE)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：60243094

